

世界で最も歴史深い国、エチオピア

2012年は、世界遺産条約の締結から40周年となります。長い皇室の歴史建国として、また、コーヒー発祥の地として知られているエチオピアは、1978年に最初の世界遺産として登録された『ラリベラの岩窟教会群』と『シミエン国立公園』をはじめ、2011年に新たに加わった『コンソの文化的景観』など、8件の文化遺産と1件の自然遺産を保有しています。今回は、駐日エチオピア特命全権大使のマルコス閣下に、魅力溢れるエチオピアの世界遺産やその独特な文化、歴史についてお話をいただきました。



駐日エチオピア特命全権大使マルコス・タクレ・リケ閣下

エチオピア連邦民主共和国の礎となっています。ヨーロッパ各国がアフリカの各国を植民地化していく中で、19世紀に入ると、エチオピアではイタリアが大きな影響力を持ち始めます。しかし、3000年の歴史を持つ自信と誇りは、侵略者との戦いを諦めない大きな原動力となりました。その結果、エチオピアは欧米によるアフリカ分割の中でも独立を保つことができたのです。

—— 調和のとれた多民族・多宗教国家

エチオピアには、長い歴史を持つ宗教的行事や風習も数多く残っています。エチオピアの宗教は、エチオピア正教やカトリック、プロテスタントといったキリスト教が約50%で、イスラム教や伝統的な宗教の信者もいます。アクスムにはシオンのマリヤ教会というキリスト教徒だけでなく、ユダヤ教徒やイスラム教徒にも重要な意味を持つ教会があります。ここには、シナイ山でモーセが、創造神ヤホフェから授かった十戒が記された石板を収めた「契約の聖櫃」があります。神の

キリスト教は、エチオピアにとって大切な宗教ですが、イスラム教徒の人たちも数多くいます。昔、ムハンマドがクライシュ族に迫害されていた時期がありました。イスラム教がまだ十分な力を持っていなかった6世紀のことですが、ムハンマドは仲間と現在のエチオピアに逃げてきたそうです。エチオピアで十分な保護を受けたムハンマドはイスラム教徒に、「君たちに何か問題があればエチオピアへ行け」と言葉を遺しました。

ひとつの場所に複数の宗教が混在することはごく自然なことで、兄がキリスト教徒、弟がイスラ

—— 3000年の歴史と誇り

アフリカ、そしてエチオピアの文化や歴史に詳しい方は、あまり多くはいらっしゃらないと思います。このたびエチオピアの世界遺産を通して、エチオピアの文化や歴史を皆様にご紹介できる機会を得たことを大変嬉しく思っています。

エチオピアは3000年を超す歴史を持っています。世界遺産『アクスムの考古遺跡』は、アクスム王国の首都の遺跡ですが、アクスム王国の初代国王メネリクⅠ世は、シバの女王とユダヤ王国、

『ラリベラの岩の聖堂群』は、ラリベラ王が築いた素晴らしい世界遺産です。ラリベラ王は、ザグウェ朝の王様です。ザグウェ朝は、アクスム王国がササーン朝ペルシャとの戦いやその後のイスラム勢力の影響で衰退する中、1137年に建国し、約100年栄えた王朝でした。熱心なキリスト教徒であったラリベラ王は、アフリカのエルサレムを目指し12^{世紀}の地下聖堂群を築いたのです。岩場を10m以上掘り下げ、精密な聖堂建築を地下に築きあげた建築技術、石匠技術の素晴らしさは、やはりエチオピアの誇りであり、重要な歴史の一部になっています。

お告げを受けたメネリクⅠ世が、エルサレムからアクスムに運び込んだものです。エチオピアにはエチオピア正教の教会が数多くありますが、各教会には、聖櫃のレプリカ（アムハラ語で「タボット (tabot)」と言います）が、置かれていて各教会は大切にタボットを守っています。本物の聖櫃はシオンのマリヤ教会に収められていて、モンク (monk) と呼ばれる修行僧が一生をかけて守ります。彼は教会から出ません。常に聖櫃に寄り添い、聖櫃を守ることに一生をささげるのです。1年に1回ティムカット (Timkat) というお祭りがあります。これは、キリストがヨルダン川で洗礼を受

ム教徒という家族もいます。ムハンマドというキリスト教徒を私は知っています。これはエチオピア国民の独自性と言えるかもしれません。現在、アフリカ諸国は国際化し発展していますが、エチオピアは異なるものでも認め合うという国民性という点で、他の国々とは少し違う側面を持っています。すべての宗教、民族は平等であるべきです。現在、世界各国でみられる宗教問題や民族紛争に対する解決の糸口は、エチオピアにあるのではないのでしょうか。

ソロモン王の子供とされています。伝説の女王シバはエチオピアの出身でした。シバの女王の出身地はイエメンなど諸説あるようですが、シバの女王の出身地は、そののちのアクスム王国の領土と密接に関係してきます。紅海の交易路もアクスム王国の支配下にあり、アクスム王国の勢力はイエメンにも及んでいました。その事実を考えれば、シバの女王の出身地をエチオピアと考えるほうが自然です。

メネリクⅠ世に始まる王朝の歴史が、現在の

『ファジル・ゲビ、ゴンダールの遺跡群』は、17世紀以降、エチオピア帝国の首都だったゴンダールにある世界遺産です。エチオピア帝国は、ザグウェ朝を倒し1270年に成立し700年の歴史を有します。ゴンダールの街には王宮や宗教建築が数多く残り、エチオピア帝国最盛期の様子を伝えてくれます。エチオピア帝国の始祖イクノ・アムラクは、自分の始祖をソロモン王としています。つまり、アクスム王国の血筋が復活したことを意味しています。エチオピア3000年の歴史は、アクスム王国の流れを大きな縦糸にザグウェ朝の文化などが編みこまれて成立しているのです。

けた日を祝うお祭りです。暦によるずれがありますが、毎年1月の19日か20日に盛大に執り行われます。この日、エチオピア中の教会で、タボットが持ち出され町を練り歩くのです。シオンのマリヤ教会からもレプリカが出ます。ラリベラの12の教会からもタボットが出て、海外からも多くの人が訪れます。



2003年に返還されたアクスムのオベリスク